

＊特集

第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

大学出版部の発展的再編に必要な力とは

新たな大学出版の構築に向けて 黒田拓也 I

韓国の大学出版部の発展的再編と国際的協力 李鍾伯 6

アジアから学術成果を発信する

ポール・H・クラトスカ II

小さな国のグローバルなブックフェア

第二〇回トウルク国際ブックフェア報告 山脇佐代子 16

本がもたらす文化交流

第二二回アブダビ国際ブックフェア報告 山田秀樹 18

＊連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

夏目漱石著『吾輩は猫である(上・中・下)』酒井道夫 表2

大学出版部ニュース 21

JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES
NO. 92
2012.10
AUTUMN

大学出版

大学と社会を結ぶ
知のネットワーク



一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

NO. 92
2012.10
＊秋

初版本、ナンセンスなフェティシズム

夏目漱石著

『吾輩は猫である(上・中・下)』

酒井道夫(二代目酒井九波堂)



文庫本サイズながら、プラスチックリングが異様な存在感を示す。しかも各巻180頁前後で300g以上と案外、重い。本文頁はめくり易さを考慮してか、多少ざらつきのある加工がなされている

『吾輩は猫である』の異版とあれば見境なく入手する悪癖に染まっているので、入浴中に読める「風呂本」にも『猫』(フロンティア文庫、二〇〇五)があることを知って入手。奥付に第二刷とあるが、初版年次の記載がない。

昔、「フロタン」というのがあって、受験生諸君はこれを風呂に持ち込んで英単語の暗記に努めたようだが、今はどうなっているのか? まあこの発想の延長線上で企画された刊行物かとも思うが、うーん、成る程。このシリーズではすでに一〇〇タイトルが刊行中のようなのだが、読書好きには結構気になる品揃えではなかるうか? いわゆるお馴染み本だけでなく、意外にじつくり読みたくなりそうなタイトルが含まれている。

本を風呂に持ち込んだら居眠りして水中に落としてしまったなんて話はよく聞くし、かつて私も入浴読書を試み、本を湯気に当てる台無しにしたことがあった。こんな失敗を防ぐべく、この本は紙の代わりにカード状の塩化ビニルをプラスチックのリングで綴じた「本」だ。これなら水没させても大丈夫だつてわけ。表紙裏に「読書に夢中になって入浴しすぎると健康を害するおそれがあります」とある。

念のため、ネットに当たってみると(便利な時代だなー)、驚いたことに、世界思想社「風呂で読むシリーズ」(合成樹脂シートを針金で平綴じ)では、漱石の漢詩、俳句をはじめ、万葉恋歌、宮沢賢治、李白、唐詩選などなど、現在三六タイトルが刊行中。松岡正剛氏は、その全てを揃えていらつしやるらしい。知らなかった。風呂本に関しては、今の今まで全く不明であったことを恥じるしかない(あー、見るんじゃなかった……)。

それにしても、前者後者を通じて、その選書ぶりが本読みの心をちよつとくすぐるではないか。読書空間としての風呂やおそるべし。ネットではさらに、「ほつと文庫」に森見登美彦著『郵便少年』があるのを発見。こつちは「新作書き下ろし+入浴剤付き」。買わなくっちゃ。

大学出版部の発展的再編に必要な力とは——新たな大学出版の構築に向けて

黒田拓也
(東京大学出版会)

大学出版をとりまく状況

われわれ大学出版部ないし専門学術出版社をとりまく環境は日に日に厳しさを増しています。例えば、専門・学術書の購入機関として主要な位置を占める大学図書館の図書購入費は、書籍（和書）で約一七〇億となっており、このところほぼ一定しておりますが、図書館の予算全体では電子ジャーナルの購買規模が増え続け、その分、紙媒体の購入額は減少し続けています。

また、大学出版部にとって大きな収入源となる教科書販売の市場は、こちらも縮小傾向にあり、大学出版部のみならず多くの専門書出版社にとって将来の不安をいっそう掻き立てられる状況になっています。

このように、われわれ大学出版部が主なターゲットとしている市場そのものの変化は、大学図書館の図書購入費や

教科書販売状況に表れているように、多くの出版社が今後も期待を持ち続けていけるような状況ではありません。

とくに大学に関係する市場がここまで変化しているということは、当然のことながら、所属する研究者、そして学生たちの情報へのアクセス方法そのものに大きな変動が起きていると言えるでしょう。

新たな枠組みをつくるための仮説

われわれをとりまく環境は大きく変わっています。それに伴って既存のビジネスの枠組みは縮小し、東京大学出版会もそうですが、一年を通しての売上額は、残念ながらこのところ年々減少しています。このことの原因は、必ずしも市場構造の変化だけに帰することではありませんが、確実に言えるのは、既存のビジネスでカバーできる範囲がやはり相当に狭まってきているということです。

経営という視点からみますと、現在の売上規模や組織を健全に維持し、さらにそれによって新たな出版物を持続的に生産し続けるためには、市場の新たなニーズを掴み、それに対して適切な商品を提供することで、自らのビジネスの範囲をこれ以上細らせないよう、ないしは拡大させていくよう、努力していかなければなりません。このときわれわれが考えなければならぬのは、「出版」をつうじて、これまで以上の付加価値を、どのようにしてエンドユーザー（研究者、学生、読者……）に提供できるのか、何によって提供できるのか、といったことを明確に認識すべきではないでしょうか。

そこで、一つの仮説をたてて考えてみましょう。

紙の書籍の市場はなくなることはないが確実にダウンサイジングのサイクルの渦中にある。その中心要因として、日本における経済状況の悪化もあるが、ユーザーの情報獲得に対する方法が大きく変化していることが考えられる。大学出版部が主な市場としている大学そのものにおいて（学術）情報獲得のための手段は電子ジャーナルを中心に急速にデジタルに移行しているが、日本の出版社によるそこへの対応はまだほとんどなされていない。したがって日本の出版社は既存ビジネスの縮小に伴い売上を減らさばかりである。

市場構造の変化による出版の範囲の縮小に対応するには、デジタル展開を利用した（デジタルの強みを活かした）、システムを使って具体的な実験を行う、という三つの方法をとりました。

この慶応実験は、私たちに豊富な知見を与えてくれました。ここでは以下の二点を強調したいと思います。

- ①コンテンツはウェブに存在しなければならぬ。
- ②コンテンツは多様に組み合わせられて新たな価値を生む。大変熱心な学生モニターからの、検索機能や他の複数のコンテンツとの連携への要望、さらには、自分のノートや教材を自らデジタル化し、それらと電子書籍等を含め「学習情報」を電子的に管理するという彼／彼女らの行動から、デジタル化されたコンテンツの展開には上記の二点を意識した方が求められているといえます。

こうした実験的な取り組みを継続してきたことにより、必要とされる「サービス」の質や範囲はどうあるべきか、書籍とは違った技術に立脚したコスト構造をどのように整えるか、ということが少しずつ具体的にイメージでき、おぼろげながら「次」の出版のあり方に少し確証が持ててき

ユーザーフレンドリーで多彩な「サービス」を提供することで、商品の付加価値を高め、コンテンツ利用（流通）の範囲を拡大し、それによって発生する適切な対価を獲得する必要がある。

こうした仕組みを運営するためには、これまでの出版流通のアクターとは違った人たちと多様かつ柔軟に、そして持続可能な枠組みで連携していかななくてはならない。

仮説の検証と慶應義塾大学との「電子学術書利用実験プロジェクト」

上記のようなやや抽象的な仮説をたて、そのポイントとなる「サービス」のあり方を考えるために、われわれは一つの実験に参加し、さまざまなトライアルを行いました。それが慶應義塾大学で行った、「電子学術書利用実験プロジェクト」（以下、慶応実験）です。

この実験は二〇一〇年度と二〇一一年度の二年間にわたって行われました。ねらいとしては、（１）電子化された学術書が学生や研究者に受け入れられるかを確認し、必要とされるならば、（２）導入に必要な利用モデルや購買モデルを検討し、（３）電子学術書を支える技術面の評価を行う、ことにありました。また、これらの目的を達成するために、（a）利用者の声を集めて関係者に知見をフィードバックする、（b）実験システムや利用モデルを大学図書館と参加出版社との対話で構築する、（c）実際に「動く」

たというのが実感です。今後は、書籍の出版というモデルをデジタルに単置き換えるのではなく、「サービス」という概念を意識し、「新しい出版」のあり方を追求すべきではないか、というように考えていかななくてはならないでしょう。

具体的な可能性はいろいろありますが、例えば、デジタル・データとプリント・オン・デマンドとの併用、章単位・節単位のいわゆるマイクロコンテンツが組み合わせられた多様な教材サービス、大学内で生み出される教員の方々が作成する教材データとの連携、必要に応じてコンテンツにアクセスできるライセンスの販売、図書館の蔵書やOJSのような学術情報データベースとの連動による充実した検索・ディスプレイサービス、等々、さまざまなものが考えられます。

こうした多様な工夫によって、従来の出版の守備範囲を拡張し、新しい知的空間を構築し、大学出版部はこれまで培ってきた経験と知見を活かし、その空間の中心的役割を

グローバル・ヒストリーとは何か

パミラ・カイル・クロスリー
佐藤彰一 訳
注目を浴びる新たな歴史学
の潮流への入門書
四六判・定価2730円

ヒトラーの国民国家

一強等・人種戦争・国民的社会主义
ゲッツ・アリー
芝健介 訳
「国民の好意を買う独裁」
による「犯罪」の歴史
A5判・定価8400円

フロイトとベルクソン

渡辺哲夫
いまだ探究されざる二人
の関係に迫る渾身の書き
下ろし
四六判・定価3045円

五四運動の残響

一20世紀中国と近代世界一
ラナ・ミッター
吉澤誠一郎 訳
五四運動の精神と遺産から
読み解く中国現代史
A5判・定価7350円

反転する福祉国家

一オランダモデルの光と影一
水島治郎
福祉国家が抱える根源的
な課題を考察
四六判・定価3360円

岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
[定価は消費税5%込み]
http://www.iwanami.co.jp/

果たせるようにしなければなりません。

「新しい出版」をつくるためのエディタースhipとは

さて、ここまで述べてきたような施策を実現するために最も変わらなければならないのが、出版社がもつ中核機能である編集、エディタースhipそのものだと思います。

従来のエディタースhipは、ある書籍を出版するにあたって、著者という他者なる主体との交渉をすべての基本とし、そこでの共同作業において、世に問うにふさわしい言語表現と読者に好感をもつて受け入れられる視覚デザインを与え、合理的な原価管理と、適切な価格および初版部数の設定により商品にターゲットを明確にした性格を与え、それに基づいた販売政策を策定し、読者というさらなる他者からの評価・支持を獲得することにあります。このサイクルのなかで、製作された書籍が読者の手もとに届けられるための流通はきわめてシンプルなルートになっており、ここに編集者が特段の配慮を向けることはこれまで稀でした。

この編集の基本機能はどこまでもベースであることに違いありませんが、「新しい出版」を追求していくなかでは、著者とつくりあげたコンテンツの流通可能性をよりいっそう拡げ、そのためにはどのような機能と結びつけるべきか、またそうした機能にスムーズにのせるためにはどのようなデータをつくるべきか、また、多様なデータベースと連繫することによって、書籍の流通だけではみえてこなかった、

の構築)、④出版社―読者の直取引および図書館マーケットの強化(新たな流通経路の確保)、⑤e-book、アプリなど電子書籍市場への対処(大学教材を中心とした電子書籍市場の構築と新たな情報サービスの提供)、の五つを挙げています。

これまで筆者が述べてきたことに引き付けてみますと、①②が従来のエディタースhipの強化によって、③④⑤が新しいエディタースhip機能の充実によって克服していく課題だといえるのではないのでしょうか。

①と②はわれわれ大学出版部そのものの価値・機能をさらに充実させブランド価値を担保するもの、③④⑤がまさに今後の経営的安定さらには大学出版部の可能性を高め、経済的・機能的成長を成し遂げるための方策だと思えます。

セミナーを通じて感じましたが、一般にイメージするほど日韓の大学出版部のおかれている出版環境に大きな相違はなく、対処していくべき課題とその克服方法にも多くの共通点が見出せます。

様々な学術コミュニティの成果とどうつなげていくか、といったことをつねに意識して行動しなければなりません。いわば流通可能性の拡張の範囲を編集者自らが、そして出版社そのものが主体的に構想し、具体的なサービス機能に結びつけていくことが、縮み続ける出版の範囲を押しひろげ、ひいてはそれが出版社の経営的成長にもつながっていくのだと思います。

さらにいえば、こうした各局面で新たに必要とされる、大学や学会といった研究者コミュニティそのものも含めた多彩な事業者との交渉を繰り返し行い、調整していく能力を高めることも重要なポイントです。

企画時点から情報が流通したあとの展開まで、不断の検証と発想力・構想力の充実が問われる、かなり高度なタスクが続いていくことでしょう。

国境を越えた共同作業へ

二〇一二年七月五日に行われた、第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーにおいて李鍾伯氏(嶺南大学出版部)は、「韓国の大学出版部の発展的再編と国際的協力」と題された報告のなかで、韓国の大学出版部の課題として、①出版企画力の向上(優良な企画の確保)、②大学出版専門家の養成(環境変化に柔軟に対応していける人材の確保)、③学術出版メセナの推進(企業、文化財団、地域社会等との連携による財政基盤の確保も含めた協力支援体制

しからは、李鍾伯氏が同報告で提案されているように、日韓の大学出版部における国際的協力によって、相互の課題克服のためのアイデアを持ち寄り、大学出版部だけではなく、たとえば、デジタル展開を支えるプラットフォーム構築に重要な役割を果たすICT企業や日韓の大学図書館関係者と共同で新しい出版空間を創出するための工夫をぜひとも議論していくべきでしょう。

(1) 本実験プロジェクトの概要は下記のサイトを参照のこと。

<http://projectlib.keio.ac.jp/ebookp/>

(2) 詳しくは本実験プロジェクトの中心メンバーである島田貴史(慶

応大学メディアセンター)の下記の論考を参照のこと。島田貴史

「慶應義塾大学における電子学術書利用実験プロジェクト…実験から見えてきたもの」『情報管理』vol.54, no.6, 2011.

(3) この点について詳しくは、島田貴史「慶應義塾大学における電

子学術書利用実験プロジェクト最終報告…既刊書・電子学術書の

学術利用の可能性」『情報管理』vol.55, no.5, 2012, p.325を参照。

(4) カッコ内は李鍾伯氏の報告をもとに筆者がまとめたもの。文責は筆者にある。

シリーズ第8回
写真家 沖縄編写真
真像 琉球

集写真 島嶺と陰光

樹直 翁長 寛子 友寄 信乃
解 説

も重に抗うように
幾重に抗うように
意味性 意味性
短く 短く
生涯 生涯
真家が、その思索の
に眼差したものはなにか。
「光と陰の島」[72年の夏]
「海の旅人」より、モノクロ
121点。

■5040円

有賀喜左衛門著作集 別巻 有賀喜左衛門研究

社会学や民族学、民俗学をはじめ、日本経済史、社会史など経済学・歴史学の諸領域に大きな影響を与えてきた有賀喜左衛門の仕事の集大成、おまたせいたしました。本巻にて全13巻、完結です!

中野卓・柿崎京一・米地実編

未来社 〒112-0002
東京都文京区小石川3-7-2
tel 03-3814-5521

http://www.miraisha.co.jp/

★出版図書目録無料進呈いたします★

※価格は税込

育が、協会の次元で実施されるべきである。

また、著作権問題・製作単価・製作技法・印税と研究費の支給事例など、出版の実務に際し常に発生する疑問事項に対し、業務別担当者指定のうえ会員校が必要な情報を、随時の相談の中で提供すべきである。これとともに、大学の経営陣に対し政策的な支援要請ができるよう、出版部長などには各種出版の現況報告と資料を定期的に提供し、職員には製作および販売過程・出版動向を早く知らせる仕組みが必要と思われる。

学術出版メセナの推進 アメリカの大学出版部の大部分は、出版製作コストの七〇〜八〇%を大学や政府・企業の支援に仰いでいる。イギリスの場合、かつて聖書の出版で得た収益から学術出版ができるようにしたので、世界的な大学出版部として成長することができた。韓国の大学の現実を勘案する時、大学から財政的サポートを受けることは難しい。したがって、大学出版部も企業・文化財団などと連携して、後援会の結成や製作支援協力プログラムを推進する必要がある。

出版社―読者の直取引および図書館マーケティングの強化 主に多品種少量の出版となる大学出版部の性格上、返品による損失を減じながら売上を高めるためには、直取引方式も有用である。ホームページを強化し、詳細な図書紹介、関連研究者などに対するデータベース構築・図書販売情報、蓄積などを通じて、読者と双方向で意思疎通を図りなが

大学出版部の刊行物については、大学教材を中心に電子書籍市場が早く形成されるのではないだろうか。

アメリカのあるeラーニングのプラットフォームが提供する資料によると、アメリカの大学で使われたデジタル教材の比率は、二〇一一年には一・五%にすぎなかったが、二〇一五年には二六%にのぼると見通している。韓国も時期の差があるが、いずれこのようになってゆくであろう。

韓日における大学出版部の国際的協力

東アジア大学出版部協議会の結成 東アジアは、古代から漢字と仏教・儒教文化を中心に、長い間続く交流を通じて、共同の文化圏を形成し発展してきた。古代から長い間醸成されてきた東アジアの精神文化は、その幅と深みでは西洋文化をしのぐ人類文化のひとつの軸といえる。

このような文化的同質性に基づく各国の学問的成果を大学出版部が紹介しあえるならば、東アジア学はもつと深く広いものになるであろう。一九七一年九月、ASPA(C)(ア

ラの営業が可能な直取引方式について、活性化のために力を尽くす必要がある。

代表的な広報手段のひとつである図書目録の利用については、もはや図書館司書すらよく見ないほど、以前より利用度が甚だしく落ちている。したがって、「千編一律的な本の紹介リストから脱してHow to Read」を案内することができると、テーマのオーダーメイド型のリスト作成、紙のリストよりは詳細な書誌が掲載されたCDやオンラインリストの作成、図書館と連携した多様なイベントなどを考えてみる必要がある」と司書たちは言っている。また、大学出版部協会の次元で大学図書館・公共図書館司書たちとの交流や共同企画プログラムを推進するよう求めたい。司書が大学出版部に関心をもち、協会ホームページや業界紙を通じて新刊情報を把握するよう知らせてゆく努力が必要である。

Googleアプリなど電子書籍市場への対処 韓国の大学出版部で発行した電子書籍の大部分は新刊図書ではなく、絶版となった本や既刊を中心に製作したものであり、市場状況をみながら試行している状態である。今なお電子出版を積極的に推進していない理由としては、市場がまだ成熟しておらず、電子書籍事業の成功モデルが不在であり、また販売部数の不明確性、端末機およびビューアーの互換性とアプリの標準化問題など解決されなければならない問題が残っているからである。このような問題が解決されれば、

ジア太平洋閣僚会議)の主催で、東南アジア大学出版セミナーがソウルで開かれ、交流について議論になった。その後、一九九六年の第一五回韓日大学出版部セミナーにおいて、ソウル大学チェ・チョンゴ教授が「東アジア大学出版部協議体」の結成について具体的に提案されたことがある。彼は、東アジア大学出版部協会の創設、東アジア研究叢書や三カ国共同教材の出版、東アジア大学出版基金の設立までも提案している。

東アジアの大学出版部の協力を通じた共同の成果は、東アジアの学術文化だけでなく、韓国学・日本学・中国学を含む東アジア各国の学問を研究する世界の研究者たちにも、大きな影響を及ぼすことができる。この間、韓国と日本の大学出版部の力量はさらに強化されているので、東アジア大学出版部協会の結成を、あらためて提案する次第である。

翻訳出版交流の活性化 韓日における大学出版部の三〇余年間の長い交流にもかかわらず、大学出版部間で翻訳

自然と権力

環境の世界史

ラートカウ 環境をめぐる権力の歴史的特質を描き、政策への示唆にも富む。屈指の環境史家の主著。海老根・森田訳 ¥7500

スターリンのジェノサイド

ネイマーク 数百万人を上回る1930年代の大量殺人はジェノサイドではないのか。ヒトラーと比較は可能か。根岸隆夫訳 ¥2625

ホロコーストの音楽

ゲットーと収容所の生

ギルバート 極限状況下の日常に歌と音楽があった。ホロコーストの社会史に新たなパラダイムを拓いた書。二階宗人訳 ¥4725

サスペンス映画史

三浦哲哉 グリフィス、ヒッチコックからイーストウッドまで、「サスペンス=宙吊り」の魅惑を語りつくす第一級の映画史。¥3570

生殖技術

不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか

柘植あづみ 精子・卵子・受精卵が商品や研究材料になるとき、何が起こったか。生殖技術の構造を初めて照らし出した本。¥3360

ルネサンスの秋

1550-1640

パウズマ 西欧ルネサンスの最盛期は衰退期でもあった。国家・宗教・言語・自己概念など各分野を横断し描く。澤井繁男訳 ¥6300

シモーヌ・ヴェイユ選集 II

中期論集：労働・革命

労働組合関連の初邦訳記事、書評、長文論考「展望」、精緻な就労の記録「工場日記」新訳など12篇。[全3巻] 富原真弓訳 ¥5040

東京文京本郷

みすず書房

5丁目32-21

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)

http://www.mszz.co.jp

された図書が多くない理由は、両国の大学出版部の書籍について充分理解していないこと、翻訳出版に必要となる著作権使用料・翻訳費などの費用増加による収益問題、販売可能性の問題のためだろうと判断される。したがって、翻訳交流の活性化という観点から、韓日大学出版部協会の国際セミナーで展示した図書については、著者との協議により著作権使用料をゼロまたは低く抑え、両国における優れた書籍が相互翻訳され得る条件を作ってはどうか。韓日の協会レベルで、新刊書を中心に主題別・テーマ別に詳細な解題が載った推薦図書目録を作り、翻訳して提供する方法も良さそうである。

韓日大学出版部間の共同出版の試み　ひとつの共同テーマをもって執筆の方向性を設定した後、両国の研究者から原稿を受け取り、双方で出版するという共同出版の試みも一案であろう。単独の出版より内容の幅を広く多彩にすることができると。また、共同マーケティングも可能であり、原稿料・ブックデザイン費を含む製作経費を節減できる長所もある。

共同出版を進める方法は、二つ考えられる。まず、両国協会においてテーマを設定し、関心のある大学出版部から出された具体的な企画案を国際セミナーの際に議論し、相応しい出版社につなげるという方法である。二番目の方法は、共同出版を計画する出版部が企画案をセミナーの際に発表し、参加を希望する出版部が参加計画を各国の大学出

版部協会経由で提出するようにする、それを提案側の出版部が検討し、出版の可否を決めるという方法である。このような共同出版を通じた直接的な交流は、各国の出版方式を学びあい共有し、多様な経験を積むことができるという側面から、意味のある作業となろう。

韓日大学出版部ブックフェアの定期的開催　ブックフェアは翻訳権交渉の場でもあるが、出版社の新刊動向、各国の学問的な流れと成果、ブックデザインと製作技法などをひとつの場所ですべて見ることができるといふ点で、出版人にとっては非常に有用なイベントである。

両国の大学出版部協会が毎年参加している、ソウル国際ブックフェアと東京国際ブックフェアのブースの一角に、お互いの刊行物を一緒に展示してみることも良さそうである。フェア期間中の来場者だけでなく、大学出版部の実務者も両国の出版書籍についてさらに理解を深めることとなり、翻訳出版の検討も可能となろう。

* 本稿は『第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー』に掲載された李鍾伯「韓国の大学出版部の発展的再編と国際的協力」の一部を抜粋し、訳文に若干加筆修正を加えたものである。

アジアから学術成果を発信する

ポール・H・クラトスカ（シンガポール国立大学出版局 代表取締役）

筆者が代表を務めるシンガポール国立大学出版局（NUS Press）は北米・ヨーロッパ・東アジアの大学出版部との共同により、アジアの研究者による英文書出版を積極的に展開している。とくに彼らが収集・分析した一次データに基づく地域研究の優れた著作を世に問うてきた。

本稿で扱われるトピックは次の三点である。まず大学出版部の沿革と「学術出版の危機」、次に英文学術出版とアジアの研究者動向を概観する。最後にアジアにおける英文書出版の機会を創出するためのいくつかの提言を行う。

大学出版部の沿革と「学術出版の危機」

大学には非・研究型（教育重点型）大学と研究型大学があるが、北米で最初の「研究型大学」は一八七六年に開学したジョンズ・ホプキンス大学である。学術成果は出版されなければ価値をもたず、北米の大学出版部はその公開・

発信を担う機関として創設された。一八七八年、ジョンズ・ホプキンス大学が出版部を創設すると、シカゴ、カリフォルニア、コロンビア、トロント、プリンストン、イェール、ハーバード、スタンフォードなどの諸大学も相次いで出版部を創設した。一九三七年には、二二の加盟校からなるアメリカ大学出版部協会（A A U P）が創設された。

大学出版部はラインナップと販売地域の特徴により三つのカテゴリーに分かれる。第一カテゴリーは広汎な研究領域について全米的な販促を行う。第二カテゴリーは特定の研究領域について全米的な販促を行う。たとえばハワイ大学出版部は、ハワイ研究を全米的に販促する。第三カテゴリーは地域に関わる研究領域に傾注し、その地域限定的な販促を行い、とくに郷土文学・郷土史の刊行を担っている。

これらのビジネスモデルは次のようなものだ。版元は母体大学の部局から持ち込まれた企画を出版する。企画はピ

ア・レビューによる学術的価値に基づいて決定する。事業の運営費は大学の資金でまかなわれ、非営利的な（販売可能性の追求を第一義的目標としない）組織運営をとる。

現代に目を転じよう。第二次世界大戦を経て大学入学者数は一九世紀末の一〇倍に増え、米国政府は大学の研究とその成果公開を支援する財政措置を執るようになった。出版は研究者にとってキャリア形成と業績評価の要諦となった。一九七〇年代以降、出版部は母体大学からの財政的な自律を求められるようになるが、一九九〇年代以降、学術出版は「危機」に陥る。図書館むけ販売は一〇〇〇部から五〇〇部以下に、初版部数は二〇〇〇部から三〇〇〇〜七五〇〇部に低減した。議論のアーリーナは書籍から雑誌へ移行し、増加する学術成果に比べて書籍の刊行点数は減少した。

商業学術出版の歴史に目を向けると、ジャーナル（査読付き学術専門誌）を通じて成果公開は一九七〇年以降三倍に増え、新しい雑誌（の創刊）は一年当たり二〇％増加した。今日、そのビジネスモデルは電子ジャーナルの販売に力を注ぎ、個人の研究者でなく研究図書館むけに高価格で販売するものとなっている。学術ジャーナルの版元別占有内訳を示した二〇〇三年の統計（House of Commons, *Science and Technology, 10th Report Session 2003-04*）では、ロングロマリット化の進展で版元同士の合併と寡占化が進みつつある。

学術出版の危機を数値で見えてみよう。大学出版部の場合、

あり、各国大学出版部を通じた学術成果の全国的な販促により地位をたしかなものとした。今日、アジアの若手研究者は英文で研究成果を出版し、それらを世界的に普及せよとのプレッシャーにさらされている。昇進とテニユア（終身在職権）のため、世界の研究者たちと知見を交流しあうため、所属大学の国際的評価を高めるため、など理由はさまざま。ところが欧・米圏のジャーナルは原稿の不掲載（reject）率が高く、掲載に到る道のりは厳しい。またアジアを刊行主体とするジャーナルのほとんどはCitation Index (C.I.)にも載らず、販売地域は限られている。これはなぜだろうか。Journal of Asian Studiesを例にとろう。同誌は年間三五〇本の投稿を受け付けるアジア研究のトップジャーナルで、そのうち実際に掲載されるのはわずか三二本である（不掲載率は九二％）。投稿論文一本当たり二名の査読者がつくため、延べ七〇〇本の査読レポートがあることになる。ところが九〇％以上が不掲載となるので、六〇〇本超は無駄に帰する。これは依頼される

制作費は一点当たり三〜四万ドルであり、図書館むけハードカバーは七〇〜八〇ドル（個人むけソフトカバーはこの半額）の販売価格とし、六〇〇〜七〇〇部の初版で一万ドルの損失を生じる。商業学術出版社の場合、図書館むけハードカバーは一五〇〜二〇〇ドル（個人むけソフトカバーは制作しない）の販売価格とし、三〇〇〜四〇〇部の初版で利益を生じる。端的に言えば、大学出版部は損失を補助金でカバーし、広範な読者に販売する非営利性を志向するのに対し、商業学術出版社は損失を抑え、初版部数を絞って図書館に販売し、利益を生み出すよう志向している。

北米の大学出版部はこうした危機に対応するためさまざまな戦略をとってきた。組版のコンピュータ化、印税（著者献本）の節減、大学からの寄附への依存など、財政的緊縮策をとった。企画の採用にもより選択的になり、より多くの企画を断るとともに、研究型モノグラフを中心とするのでなく資料型企画や一般むけ書籍の刊行にも積極的になった。その結果、アジアの研究者が自らの企画を北米の大学出版部から刊行しうる機会が減ってしまったのである。

英文学術出版とアジアの研究者動向

アジアでは、第二次世界大戦後一九九〇年代までを「教育におけるナシヨナリズム」期、二〇〇〇年代以降を「教育における国際主義」期として区分できよう。かつて、アジアの研究者が業績評価の基準とされたのは自国語出版である。したがって実際には、査読にかけられず不掲載となる。書籍出版の場合も事情はあまり変わらない。アジアの研究者は英語を第二、第三、ときには第四言語とするため、英語での論文執筆そのものに少なからず苦勞する。また言語の差違のみならず、思维構造や論理構成の差違にも直面する。英語圏の研究動向や研究資源を摂取しようとしても、研究環境の乏しさからそれらに充分アクセスすることができない。したがって、アジアの研究者による一次データや分析は、学術的価値がいかに高くとも、欧・米の学術出版社にとって興味の対象とはなりにくい。

アジアで英文書出版の機会を創出するために

アジアの研究者は学術出版に何を期待するのだろうか。研究者の国際交流を深めるための英文書出版の機会、それを創出するより多くの制作チャネル、効果的な普及と販促

新刊案内

長谷部俊治・松橋晴俊 編著
持続可能性の危機——地震津波原発事故書に向きあって——
研究者の立場から、3.11災害と向き合い、問い続ける中で発見した問題に、どのように取り組むべきか
四四一〇円

横田伸子・塚田広人 編著
東アジアの格差社会——夢と虹
日中韓の社会的格差拡大の現状を、政策と市民運動の対案を併せ紹介する
四四一〇円

鎌田真弓 編
日本とオーストラリアの太平洋戦争——記憶の環境を問う
日豪間の戦争体験への互いの関心の差を乗り越え、和解への道を探る
三二五〇円

綾田広治 著
反骨と変革——日本近代文学と女性老い格差
21世紀の世界を知るための作家の思想との真摯な対話
三三六〇円

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

である。他方、アジアの大学が英文書出版に熱心なのはなぜだろうか。国際競争における大学のランキングを上げ、留学生受入れを増やすためだ。このため、大学職員や出版部職員に英文での出版を要請する。

既存のビジネスモデルに対抗する潮流として、オープン・アクセスがある。読者は、電子的端末とネットワーク環境さえあれば、無料でコンテンツを読むことができる。これは費用がかからないことを意味するわけではない。費用負担の主体が異なるのである。既存の出版が、読者の費用負担を対価としてコンテンツを提供する「読者負担モデル」と呼ぶうるならば、オープン・アクセスは、著者の費用負担のもとコンテンツを提供する「著者負担モデル」といえる。ただし、電子出版の初期導入コストと維持管理コストは高額である。個人の研究費などでこれを負担できる研究者はおらず、実際には大学や政府の研究助成金を受けてまかなうことが多い。だが東南アジアやアフリカなどの発展途上地域では、研究者の所得水準が相対的に低く、知的資源へのアクセスが難しい。結果として、オープン・アクセスはとりわけ発展途上地域の研究者に「全てを読めるが、何も出版できない」状況をもたらしてしまう。

こうした状況で、学術出版の将来を切り拓く途は何だろうか。筆者の経験をふまえた次の三つを提言したい。

第一は、英文出版ワークショップの開催である。出版社が研究者に求める水準を伝え、企画の持ち込みから刊行へ格の抑制をはかっているためだ。北米の大学出版部の間でもこうした共同出版の試みが始まっている。また雑誌についても、中国では一万誌、日本では九〇〇誌が存在し（その半分はおおむねジャーナルでなく紀要 (periodical) だが）、コンテンツの量は潤沢である。

誰しもひとりでは、あるいは単一の版元では「学術出版の危機」を解決することはできない。しかし国境を越えて協働を深めることにより、アイデアを交換し、適切な解決策を考え出し、その実現に近づけることができる。本稿が日本・韓国大学出版部の「国際的協働」にとつて何らかの一助となれば幸いである。

* 本稿は第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーにおける招待講演（二〇一二年七月六日、東京・中央大学駿河台記念館）の記録をもとに翻訳と再構成を施したものである。

訳註
(一) 今日、学術論文の妥当性は「他の同僚研究者に多く引用さ

藤原書店

定本 竹内浩三全集
戦死やあはれ
『全作品集』刊行から十一年。その後に見送られた作品も全て網羅した決定版！ 小林黎編 9975円

新渡戸稲造 1862-1933
我、太平洋の橋とならん
草原克豪「真の国際人」初の全体像。教育、国際理解、平和。数多の分野で活躍。 生誕150年記念 4410円

天草の豪商・石本平兵衛 1787-1843
河村哲夫 江戸後期、三井・住友・鴻池に次ぐ資産を築いた天下の大商人。幕府勘定御用達をも経験した豪商の、栄枯盛衰の物語。 3990円

3・11と私
東日本大震災で考えたこと
青木新門 / 石牟礼道子 / 赤坂憲雄 / 秋山豊寛 / 町田康 / 渡辺京二ほか
計106名 藤原書店編集部編 2940円

詩人・高群逸枝 エッセイ 2001-2002
石牟礼道子全集・不知火 第17巻 (全17巻・別巻一)
石牟礼道子による高群逸枝「覚書」を初集成。未発表メモ「森の家日記」も収録。 解説=白井隆一郎 8925円

◎「日本を問うことはアメリカを問うことである」
学芸総合誌 季刊 環 | 歴史・環境・文明
vol. 50 2012年夏号
(特集) アメリカとは何か
チャールズ・ビアードを軸に
開米潤 / 岡田英弘 / 小倉紀蔵 / 小倉和夫 / 中馬清福 / 西部邁 / 渡辺京二ほか
(小特集) ビール・ブルフェー(愛10年)櫻本陽一ほか(インタビュー)E・トッドほか(金時鐘さん、高見原貞受賞)金時鐘ほか(東日本大震災と後援新刊)橋本五郎ほか 3780円

月刊 機
B6変32頁 8月号 No.245
小林義 / 河村哲夫 / 金井和子 / 石牟礼道子 / 大石芳野 / 片山晋輔 / 高銀 / 津島佑子 / 中川志郎 / 中村桂子 / 松葉一清 / 小西潤子 / 加藤晴久 / 稲谷一希 / 一海知義ほか
年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 *表示価格税込
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
撥替 00160-4-17013 TEL03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

到るまでの必要なノウハウを伝授する。だが、これは課題が多い。アジアの研究者による原稿は編集・校閲にたいへんな労力が必要とされ、ほとんどの版元にはそれを引き受けるキャパシティがない。また英米的な研究作法への反感もある。中国のある大学でこれを開催した際、ある若手研究者からこんな言葉をかけられた。「あなたのお話しは興味深い。しかしここは中国です。中国ではやり方が違う。」

第二は、小局も展開している「共同出版」である。アジアの大学出版部どうしが制作・普及などの機能を分担し、各々の立地に応じて販売地域をシェアする。

第三は、この共同出版を多角的ネットワークとして展開した汎アジア学術出版コンソーシアムの構築である。

おわりに——発展的再編と国際的協働へむけて

将来、アジアから発信される英文学術書がどれほど欧米を意識し、経済的バランスを考慮して持続性ある企画・選書・普及に取り組めるのか——今日、学術における英語の圧倒的優位に鑑みると、厳しい事態に直面していることは否めない。ただし、前節の提言をふまえて次のように考えた場合には可能性がある。北米とアジアの原価構造を比較してみると、北米のとある大学出版部に比べて、シンガポールでの制作費は約半分である。アジアでは物価・人件費の安さに加え、共同出版によって部数を北米の四倍ほどに増やし、販売地域を拡げるとともに、一冊当たり販売価

- れること」で担保される。CIはこの現代諸科学がもつ前提を「被引用回数」に基づいてインパクト・ファクターとして指標化したもので、ほとんどの分野で業績評価の基準となった。CIの計数対象となるには厳正な基準を満たす必要があるが、アジアの場合、地域内からの投稿だけでは被引用度の高い論文を確保できず、刊行の定期性を維持することさえ難しくなる。その結果、CIの対象からも外れ、欧・米圏の研究者の目に触れにくい状況に陥ってしまう。
- (2) これに対しヨーロッパ諸国では、発展途上地域を拠点とする研究者層を財政面・ノウハウ面などから多角的に支援する「author aid」がある (<http://www.authoraidinfo/>)。
 - (3) その日本における枠組みと課題は斎藤至「国境を越える学術出版」『大学出版』八九号、二〇一一年を参照。
 - (4) たとえば、コロンビア・シカゴ・カリフォルニアの三出版部による南アジア研究のシリーズ企画(全六巻)がある。次のURLから概要が閲覧できる。
<http://cup.columbia.edu/static/south-asia-across-the-disciplines>

小さな国のグローバルなブックフェア

——第二〇回トゥルク国際ブックフェア報告

山脇佐代子

(京都大学学術出版会)

版権の問い合わせもなく、その種のビジネスで訪れている人もまるでなし。驚くべきことに国として出展しているのは日本だけ。それでいて日本ブースは大盛況。英語は使うに及ばず。Webから会場内配布の小さなリーフレットにいたるまで公用語のフィンランド語・スウェーデン語のみ。ここで行われているのが国際見本市でないことは明らかだが、それでいてこれも紛れもない国際ブックフェアなのだ。世界屈指の読書大国フィンランドのブックフェアを訪ねた。

小さなプロペラ機でトゥルク空港に降りたのはちょうど一年前の九月二八日一七時。緯度の高いこの国ではすでに日の暮れ時だった。木立は紅葉し、冷たい雨が滴っていた。天気予報はこのところずっと曇と雨のマークが続いている。いずれ雪に変わって春まで降り続く雨の季節が始まっているのだ。到着翌日は会場設営。日本ブースは、正面入口から入って最奥のやや広いスペースを占め、赤い絨毯がひととき目を引く。アールト大学で空間デザインを学ぶ澤谷徳幸氏のデザイ

ンで、赤い敷物にメインの書棚が正面の壁面に楕円形に配されているのは、目の丸をイメージしたものだという。この書棚を挟んで左側に少し張り出した壁面書棚には友好団体フィン日協会発行の小冊子が並べられ初の販売が試みられる。向かって右側には腰掛けられる畳のスペースが設けられている。そこではアザラシロボットのパロが来場者を迎え、緑茶がふるまわれる予定である。畳の右の壁面は東日本大震災のミニパネル展のスペース、さらに少し大きめの薄型ディスプレイが設置され、ここでは日本の文化を紹介するビデオが流される手はずになっていた。毎年ヘルシンキの旅行博で手腕をふるう大使館の渡邊聡氏のおもてなしプランは周到である。翌午前十時いよいよ開幕。トゥルクに来て初めて青空がのぞく。かの地のブックフェアは初日から一般公開だ。そして開幕一時間も経たぬ間にブース訪問者は軽く百人を超えてしまった。来訪者を見ると、大人も子どももプリントを持っている人が目につく。尋ねてみると学校の授業や、地元のカルチャークラブの学習だという。テーマ国日本はもれなくその学習課題になっているというわけだ。授業の一環で引率の先生に連れられた子どもたちもいれば、少し大きい子どもはグループで回っている。二日目のお昼過ぎに一人で現れた子は「昨日学校を休んだので宿題」という具合で、市内の子どもたちは日本ブースを訪れる機会を免れられないらしい。緑茶のもてなしも好評で、お陰様で日本ブースは大盛況だ。それのみではない。日本ブースの右隣はフィンランドの漫

画大手 Sangatsu Manga に、翻訳された日本の漫画をずらりと揃えて即売中だ。Sangatsu Manga はフィンランドの出版大手 Tammi グループの一員で、マネージャーの Valkama さんは頻りに日本に向く事情通。私の足りない知識を補ってくれる。通路を挟んだ右斜め向かいには Tammi 本体のブースだが、こちらは村上春樹氏の小説の翻訳出版社だ。真向かいのブースでは、谷崎潤一郎の『陰影礼讃』、岡倉天心の『茶の本』の翻訳が販売されている。主催者はテーマ国「日本」を盛り上げるために和書の翻訳をてがける出版社を日本ブースの周りに意図的に配したのらしい。限られた書籍しか搬入できない中でありがたい配慮である。

トゥルク国際ブックフェアは行政一体の主催で、私が派遣された第二〇回は二〇一一年の欧州文化首都の公式行事の一つでもあった。同日程で併催の食品博と共通の開催テーマは「北欧諸国と日本」。日本関連イベントもお寿司教室や、日本研究者の講演など連日用意されていたが、これらも日本側ではなく、主催者側でアレンジされたものということだった。冒頭に触れたとおり、この国際ブックフェアでは公式サイトからプログラムの一枚まで公用語のみで、英単語の一つも見かけることがない。初日午後に行われたオープニング・イベントでも、丸山大使は英語で挨拶されたが、主催者の挨拶はフィンランド語でいずれにも通訳はつかなかった。各国の大使館員を含め外来者にはちんぷんかんぷんである。これによってもブックフェアが、他でもないトゥルク市民のもの

という意識に貫かれていることがよく分かる。すべからず学校をあげて参加し、食品博の会場で先着順に配られたトイレットペーパーを提げて、町のおじさん、おばさんがブックフェアをみて歩くといった具合で、その盛大さ浸透度は半端ではない。もちろん出版社や書店の即売も行われていて、有数の読書大国ならではの、会場での書籍購入も盛んだ。人口約五三〇万人の国で大抵の本が自国語で読めてしまう出版文化、それを支える底力ここにありきという圧巻である。

主催者は市民が最大限図書展を有効に活用できるように用意し、トゥルク市民は年変わりのテーマ国を通じて居ながらにして様々な国の文化を学ぶ機会をえることができるわけである。テーマ国もまたビジネスとしてはまったくだが、文化交流としては充実した成果をあげられるしかけになっている。小規模だが豊かな国際ブックフェアの姿がここにあると実感することができた。

最後になったが、このブックフェアの場を準備してくださった主催者、国際交流財団、大使館スタッフの皆さん、通訳の学生スタッフの皆さん、貴重な機会を私に与えてくださった出版文化国際交流会、そして大学出版部協会の皆様に改めて心から感謝申し上げます。

* フィンランドの出版概況については下記サイトに詳しく。

フィンランド書籍出版協会 <http://www.kustantajat.fi/>
フィンランド書店組合 <http://kirjakauppaalitto.fi/>

本がもたらす文化交流

——第二回アブダビ国際ブックフェア報告

山田秀樹

(東京大学出版会)

「アブダビ (Abu Dhabi)」と聞いてすぐに場所を思い浮かべることができる人は、あまり多くないかもしれない。「アラブ首長国連邦 (UAE)」の正確な位置を指摘できる人も、それほど多くないと思う。

ところが、リゾート地として日本人観光客も多く訪れ、高層ビルとエメラルドビーチが広がる「ドバイ」の近くといえは、おおよその場所をイメージできるのではないだろうか。そう、アブダビはドバイから車で約二時間半のベルシャ湾岸に位置しており、UAEの首都である。UAEの首都はドバイではなく、アブダビなのだ。

そのアブダビにて、三月二十八日から四月二日まで国際ブックフェアが開催された。湾岸最大と言われるアブダビ国際ブックフェアは、アラブ諸国からはもちろんのこと、ヨーロッパやアジア各地からも出展が見られる。会場の規模と華やかさ、セミナーやシンポジウムの数と多彩さは、東京国際ブックフェアを凌いでいるように思う。

味深そうに眺め、鶴や手裏剣が出来上がると小さな歓声が起こる。自分でつくってみたいという子供もいて、そのまま折り紙教室となる。折り紙の本を探しに来る人も多い。

漫画については、若者が興味を示し、なかには相当詳しい人もいる。日本でも人気の『ONE PIECE』など多くのコミックが英訳されているので、それらを通じて『MANGA』を楽しんでいるようだ。コミックを通じて日本語を覚え、日本に興味を持ったという人も多い。日本のプレゼンスの低下が叫ばれるなかでも、「日本轟頂」の外国人はまだまだいるのだ。

ところで、今回の滞在中に急展開をみせたのが、アブダビ政府 (アブダビ文化遺産庁) が主宰する『KALIMA (カリマ)』プロジェクトへの日本の参加促進についてである。

『KALIMA』とは「言葉」を意味するアラビア語であるが、世界の良書をアラビア語訳出版し、広くアラブ圏の読者に提供する国家プロジェクトだ。世界各地から寄せられる候補作・推薦作のなかから、審査を経て毎年一〇〇冊程度が選ばれ、アブダビ政府の費用負担により翻訳出版される。日本とアブダビ政府が今後、どのような枠組みでプロジェクトを推進するのか話し合うため、私の滞在中に大使館と文化遺産庁のあいだで協議を行うことが急遽決まった。

日本の作品についても、このプロジェクトにより十点左右ほど翻訳されている。しかしながら、全体で約六〇〇冊を翻訳してきた実績のなかでは点数が少ないうえ、文学系統の作品に偏っていることもあり、アブダビ政府としては、もう少しバ

日本ブースは、昨年同様、在UAE日本国大使館・国際文化交流基金・出版文化国際交流会の共同出展となった。展示書籍は、日本庭園や日本料理など日本文化を紹介する本、日本旅行用のガイドブックなど実用書、村上春樹や大江健三郎など著名作家の小説、『ONE PIECE (ワンピース)』『SLUM DUNK (スラムダンク)』などのコミック、そして今回は東日本大震災の様子を伝えた雑誌の臨時増刊号などである。

初日午前にオープニングセレモニーが行われ、華やかに開幕。ほかの大使館スタッフとともに終日ブース対応する私の役割は、日本ブース来場者の問い合わせに対応すること、そして日本の出版物をPRすることである。展示書籍は、文字通り「展示」にとどまり販売はできないので、東京国際ブックフェアのような売り込みはできないのだが、それでも、あるいはそれゆえに、質問はいろいろと飛んでくる。それらに適宜対応することが求められた。

当然のことながら、日本ブース来場者のリクエストはさまざまである。「日本料理について知りたい」「日本のアイドルの写真集はありますか?」「アブダビで日本語を習いたい」「合気道とはどういうものですか?」「自身の本を日本語訳出版したいのですが……」などなど多岐に渡り紹介しきれないものの、総じて「折り紙」と「漫画」の人氣は高い。

折り紙については、来場者へのプレゼントとばかりに折り鶴をこしらえていたこともあり、つくっている最中から子供を中心に多くの人が集まってくる。みな、折っている姿を興

ランスよく日本の寂知をアラビア語圏読者に提供したい模様だ。

話し合いには、渡邊大使をはじめとする大使館のスタッフに加え、国際文化交流基金カイロ日本文化センターのスタッフも同席された。国際文化交流基金は、いままで別途独自のプロジェクトとしてアラビア語訳出版を手掛けており、またカイロ大学には翻訳を担える人材を備えていることもあり、今後、日本側としては大使館と国際文化交流基金を中心に協議を進めていくことになった。まずは仕切り直し後として、最初に五冊程度の翻訳を実現できればよいのではないだろうか。

参加して振り返るに、日本の出版物のブースを設け、それらについて知りたいと来場する人に説明・PRすることは、大学出版部協会が催す日・中・韓三カ国セミナーを「外交の場」(斎藤至「出版人と三国外交」『大学出版』七五号)とわざわざえた如く、小さな小さな「外交」であることを実感した。会場にて来場者と直接情報交換することが、草の根の文化交流として、日本のPRと相互理解に繋がるからである。

一方、展示書籍を売ってほしいという要望に応えられないこと、あるいは日本語を理解できない多くの来場者にとって、展示された日本語書籍の内容を把握できないことなど、いくつか課題も感じた。とはいえ、「本」を通して相互理解を深める国際ブックフェアへの参加は、今日における「ソフト・パワー」の重要性を鑑みるならば、さらに積極的に展開されるべきものと強く思う。

ナチュラヒストリーの時間

大学出版部協会編 A5判/160頁/定価1680円

自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラヒストリーを愉しむ

I. Prologue of Natural History

- 第1話 自然を記録すること…… 斎藤靖二
第2話 自然史と本…… 青木淳一
第3話 日本のナチュラヒストリー…… 岩槻邦男
コラム① 動物写真の世界

II. History of Nature

- 第4話 ノーチラス号が遭遇した大ダコ…… 奥谷喬司
第5話 マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め…… 矢島道子
第6話 京都の語り部：深泥池…… 竹門康弘
第7話 遺跡の土に秘められた情報…… 松井 章
コラム② ききみみずきん
第8話 遺体で動物学を埋め尽くす…… 遠藤秀紀
第9話 ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち…… 武藤文人
第10話 日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ…… 小山幸子

III. Diversity of Nature

- 第11話 サクラソウとマルハナバチ…… 鷺谷いつみ
第12話 日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる…… 湯本貴和
第13話 琉球列島の自然史…… 太田英利
第14話 マンボウと標本…… 松浦啓一
第15話 分類学事始め：タクソン、タイプ、名前…… 馬渡駿輔
コラム③ サルにノミはいない？ 幻の定説

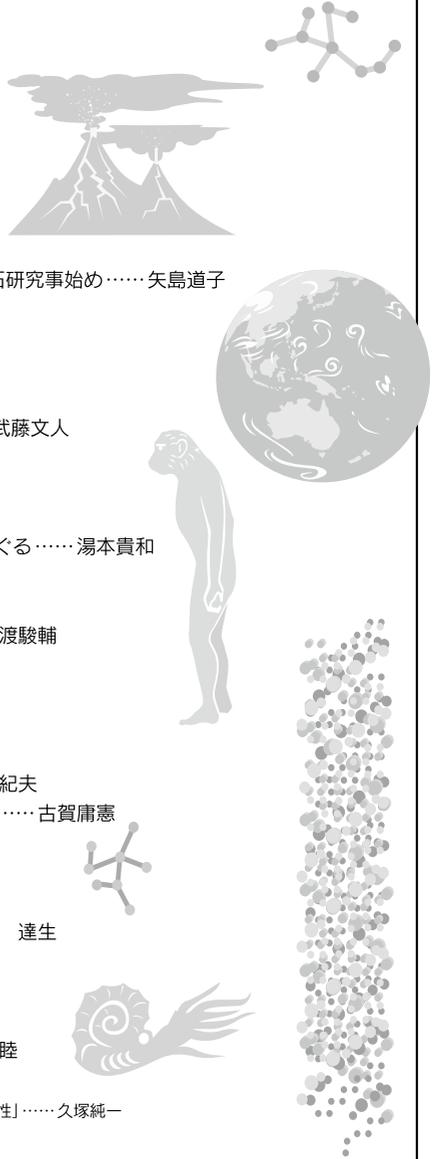
IV. Story of Nature

- 第16話 クマ大量出没の謎…… 大井 徹
第17話 ふしぎの国のアリ巢…… 丸山宗利
第18話 現代によみがえったインカ時代の狩猟…… 山本紀夫
第19話 子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材…… 古賀庸憲
第20話 熱帯雨林の林冠アリ…… 市岡孝朗
第21話 殿様の自然史…… 松岡明子
第22話 幻のロバと男たち…… 木村李花子
第23話 食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー…… 周 達生
コラム④ アリジゴクの自然史

V. Epilogue of Natural History

- 第24話 遺伝子を通じた動物との対話…… 村山美穂
第25話 ゲノム時代のナチュラヒストリー…… 西田 睦
コラム⑤ 小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」…… 久塚純一
自然史文献リスト



大学出版部ニュース

●第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー「第三〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」は、七月五日・六日の両日に亘り、東京国際BF会場の東京ビックサイトと中央大学駿河台記念館の二会場において開催された。韓国大学出版部協会からは権元淳会長をはじめ一五名が、日本側からは山口雅己理事長以下三六名、合わせて五十名を越える参加者であった。

主題報告のテーマは「大学出版部の発展的再編と協働」、報告者は、黒田拓也常任理事（東京大学出版会）と李鍾伯（嶺南大学校出版部）の両氏、招待講演としてシンガポール国立大学出版部のP・クラトスカ氏であった。何れもセミナー主題に沿い、抽象論に終わることなく、大学出版部の課題と展望を現実即して示した優れた報告であり、これまでの発表と比較しても、出色のレポートと言えるだろう。中国不在のセミナーではあったが、従来の方角を七セミナーを超える新たな国際セミナーの在り方・枠組みが提案される

など、充実した内容であった。P・クラトスカ氏による英文書籍の協働出版と販売についての講演には、渡辺浩東京大学出版会理事長も出席し、熱心に聴講され、関心の高さがうかがわれた。また本セミナー開催にあたっては、後藤健介国際部会長以下国際部会員の「協働」力が発揮された。マンパワーの不足を「協働・共同」によって、成功に導いたことは、今後の協会活動に繋がるであろう。

●創立五〇周年記念事業策定会議…八月二九日、日本出版クラブ会館において「大学出版部協会創立五〇周年記念事業策定会議」が開催された。常任理事を中心に正・副四部会長・関西支部、事務局など二三名が参集し、二〇二二年度定時社員総会で承認された「創立五〇周年記念事業」を総合的に検討し、課題を抽出し実行に移すための会議である。創立五〇周年記念事業の実行に際しては、個々の事業に対する部会横断の相互理解と認識、協会全体としての「協働」がより一層望まれる。

北海道大学出版会

▼白井博著『子どもの熟慮性の発達―そのメカニズムと学校文化の影響』（A5判・六三〇〇円）熟慮性や衝動性の発達、柔軟性、学校の影響を認知的社会化の文脈から分析。（札幌学院大学選書）

▼安藤厚・細川敏幸・山岸みどり・小笠原正明編著『プロフェッショナル・ディベロップメント―大学教員・TA研修の国際比較』（A5判・二七三〇円）FD、TA研修等、現場に密着した報告。

▼加藤鍊太郎・鄭吉雄編著『中國古典の解釋と分析―日本・臺灣の學術交流』（A5判・九九七五円）経典・解釈・文献学の関係に着目、研究方法や理論を融合し、経典をより深く探求。

▼佐藤郁夫・森永文彦・松本源太郎編著『北海道の企業3―ビジネスをケースで学ぶ』（A5判・三一五〇円）地域資源を活用するマーケティングに取り組んできた13企業のケーススタディ。

▼長谷川晃編著『法のクレオール序説―異法融合の秩序学』（A5判・五四六〇円）法どうしの遭遇・接合・変容過程における法結合の動態を分析、把握。（北海道大学大学院法学研究科研究選書6）

弘前大学出版会

▼『資本論』第一章「商品」の解説―マルクス独特の文体による経済学者との対話篇―(丹野正著) (B5判・一六八頁・定価二三〇〇円)

「使用価値」は、いつの時代のどの社会でも、種々の有用物そのものとして「富の素材的な内容」をなしている。ところが「商品交換社会」にあつては、使用価値は同時に「幻のような価値なるもの担い手」になつてゐる。それを担わせたのは?この社会の人びとである。



▼『写真集 続々 弘前界限』今泉忠淳著 (A5判・五三頁・定価一四七〇円)

弘前の町のありふれた光景を銀塩モノクロフィルムを用いて撮影した写真五〇枚からなる写真集。

東北大学出版会

▼高等教育ライブラリ3『東日本大震災と高等教育の使命』東北大学高等教育開発推進センター編 (A5判・一七八五頁)

大学は、災害時にどんな役割を果たせるのか。被災三県11大学の具体例から、高等教育と地域貢献・人材育成を考える。

▼高等教育ライブラリ4『高等学校学習指導要領VS大学入試』東北大学高等教育開発推進センター編 (A5判・一七八五頁)

高校・大学双方の見地から、橋渡しとしての大学入試システムの問題点を提示。大衆化する教育の「つながり」を、幅広く考察しながら深く再検証する。

▼『開業医の光感受性てんかん研究―国際研究協力の先端に立つて』高橋剛夫著 (四六判・三一五〇円)

「ポケモン事件」の分析を担った著者が振り返る、国際的研究の現場とこれまでの歩み。

▼『奈良仏教と古代社会―鑑真門流を中心に』富樫進著 (A5判・三七八〇円)

鑑真高弟・法進の『沙弥十戒并威儀経疏』から、奈良期、唐仏教が日本に移植された道筋を辿る。新視点からの日本古代思想史像構築の試み。第7回東北大学出版会若手研究者出版助成採択作品。

流通経済大学出版会

▼『THE LITTLE BOOK OF TRAVEL』岡野ロビン著 (A5判・七二頁・六三〇円)

▼『現代日本のガバナンス』村田彰・植村秀樹編 (A5判・三五二頁・三四六五円)

▼『説明文のマクロ構造把握―国語教育・日本語教育への指導・応用に向けて―』立川和美著 (A5判・二六四頁・三二五〇円)

▼『私的交通システム論』生田保夫著 (A5判・二八六頁・三六七五円)

▼『障害者旅行の段階的発展』井上寛著 (A5判・二四〇頁・三二五〇円)

▼『企業間関係の構造―企業集団・系列・商社―』島田克美著 (A5判・三六六頁・四二〇〇円)

▼『社会学は面白い!―初めて社会学を学ぶ人へ―』流通経済大学社会学部入門書編集委員会 (B5判・二八〇頁・一五七五円)

▼『貨幣と市場の経済思想史―イギリス近代経済思想の研究―』小池田富男著 (A5判・三三三頁・四四一〇円)

今後ともご愛顧を賜りますよう……。

聖学院大学出版会

▼ヨハン・セルス、チャールズ・E・マクジルトン「人間としての尊厳を守るために―国際人道支援と食のセーフティネットの構築」 (A5判・七六頁・七三五円)

現在も世界の各地には、戦争などによつて住む場所を失い、国外に避難せざるをえなくされた多くの人々がいる。これらの人々に緊急に対応し、再び住んでいた場所に戻るまでを支援している組織として、国連難民高等弁務官事務所がある。ヨハン・セルス氏は、日本の事務所代表として世界の難民の状況を明らかにするとともに日本で何ができるかを問いかけている。

豊かな国と言われ、多くの食料が捨てられている一方、日本では毎日の食事に事欠いている人々がいる。チャールズ・マクジルトン氏は、NPO「セカンドハーベスト・ジャパン」を組織し、余つて処分される食料を、それを必要とする人々に届ける仕組みを作り出した。

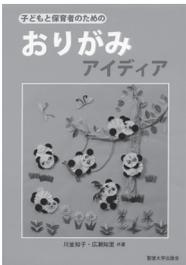
この2人の語りかけから私たちがいま考えなければならぬ課題が浮かび上がる。

聖徳大学出版会

▼『こどもと保育者のためのおりがみアイデア』川並知子・広瀬知里編著 (B5版・一二八頁・一五七五円)

本書は、「はじめての紙あそび」に出会う幼児や手・指の未発達な幼児が無理なく折り紙で遊べる方法を取り上げています。破く、ちぎる、もむ、丸める、ねじる、はる、ふりかける、通す、結ぶ、折る、切るなど、紙あそびの初歩的技術で幼児が折り紙遊びを楽しめる構成になっています。

また、「折る」だけで、計算や分度器などの道具を使わなくとも折り紙を三分や五等分・六等分にできる技法も載っています。六角形などの多角形を折ることは、大人にはボケ防止に役立つかも。「折る」という手法だけにとどまらないおりがみ。新たな折り紙の魅力に出会える一冊です。



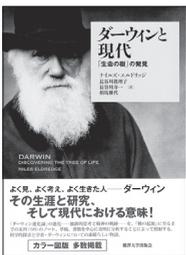
麗澤大学出版会

▼ナイルズ・エルドリッジ著/長谷川眞理子・長谷川寿一・相馬雅代訳『ダーウィンと現代―「生命の樹」の発見』 (B5判・二七二頁・七九八〇円)

ダーウィンの進化論の進化―独創的思考と精神の軌跡―を、「種の起源」に至るまでの未刊(当時)のノート、草稿、書簡を中心に克明に分析する。科学的探究と学者・ダーウィンについての素晴らしい物語。カラー図版多数掲載。

▼吉田健一郎『変貌する情報セキュリティイマネジメント―技術・法令・倫理を基盤として』 (A5判・一五二頁・二三一〇円)

情報資産を守る新たなメカニズムとは。情報セキュリティ意識の普及に成功させて、情報通信技術の利便性を享受している企業事例を取り上げ、「技術」(法令) (倫理) を統合した情報セキュリティイマネジメントを論究する。



慶應義塾大学出版会

▼鈴木隆著『中国共産党の支配と権力―党と新興の社会経済エリート』(A5判・四四〇頁・七一四〇円) 市場経済化とともに社会変動の中で、中国共産党はどのようにして一党独裁を維持しているのか。多数の資料と綿密な実証分析に基づき、新興エリートを取り込みつつある支配の実相を解明し今後を展望する。

▼松尾弘著『民法改正を読む―改正論から学ぶ民法』(A5判・二五六頁・二五二〇円) 現在大きく変わろうとしている民法(債権法)。民法の基本ルールはどのように変わるのか、改正の視点、改正の論理とは何か。民法改正の行方を読み解く鍵となる視点を明快に提示しながら、民法をより深く理解できる好適書。

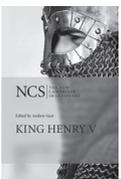
▼納富信留著『プラトン 理想国の現在』(四六判・三二二頁・二九四〇円) ユーロピア論最大の著作であるプラトン著『ポリテイア』(『国家』)は、戦前日本に『理想国』の標題で紹介され、理想の近代国家建設を目指す日本人の魂を揺さぶった。やがて全体主義のイデオロギーに利用されてゆく運命を辿った問題作の核心に触れる、野心的な一冊。

ケンブリッジ大学出版局

▼The New Cambridge Shakespeare
41 Volume Set
(41 Paperback books 9781107656635 USD 470.00)
長い歴史を誇る定番のテキスト、ニュー・ケンブリッジ・シェイクスピアシリーズが、新たなカバーとなって新登場。二〇一二年の新刊『The Two Gentlemen of Verona 2nd Edition および The Two Noble Kinsmen』を加えた41巻がセットになりました。(個々のタイトルでもご購入いただけます)。

▼The Cambridge Edition of the Works of Ben Jonson 7 Volume Set
(7 Hardback books 9780521782463 USD 990.00)
ケンブリッジ版 ベン・ジョンソン著作集全7巻セット。

▼How to Write and Publish a Scientific Paper, 7th Edition
(Paperback 9781107670747 USD 37.99)
科学誌への論文の書き方を実用的に解説する世界的ベストセラーの待望の第7版。



産業能率大学出版部

▼『これからのマーケティングがわかるマーケティング・イノベーション』内山力著(A5判・二一〇〇円)本書は、数多く存在するマーケティングに関する情報を体系化したものであり、数多くのマーケティングに触れることでその本質を知り、企業をリードしていくためのものである。

▼『経営指標の実践フレームワーク』宮川雅明著(A5判・二一〇〇円)すべてのビジネスパーソンを対象に、目標とする財務数値を達成するためには、何を指標化したらマネジメントに役立つか、組織マネジメントにとって価値ある視点で解説します。

▼『改訂版 戦略行動型リーダーシップ』岡部博著(四六判・一八九〇円)管理者のための戦略思考の育成、戦略発想の中心となる見通しづけ能力の開発など、「管理者のリーダーシップ」テキストに最適。21世紀対応のための改訂版。

専修大学出版局

▼根間弘海著『大相撲行司の軍配房と土俵』(A5判・三〇〇頁・三三六〇円)文字資料や絵図資料を使いながら、大相撲行司の歴史的背景を解説していく。横綱土俵入りと行司の着用具、行司の黒星と規定、朱房行司と草履、木村姓と式守姓、行司の改名、番付と房の色、など。本書は『大相撲行司の伝統と変化』(二〇一〇年発行、定価三七八〇円)の姉妹書である。



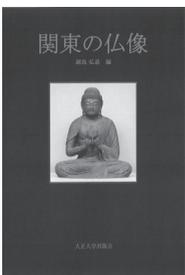
▼藤本一美・濱賀祐子著『増補改訂 米国の大統領と国政選挙―「リベラル」と「コンサヴァティブ」の対立―』(A5判・三〇八頁・二五二〇円) 米国における戦後の歴代大統領とその選挙について論述し、さらに国政選挙Ⅱ中間選挙を年代順に並べて分析。これらの選挙を対立軸に見立てて、内政・経済・外交・軍事などのアメリカ政治のダイナミクスに迫り詳しく述べている。



大正大学出版会

▼伊福部昭作曲 片山杜秀・勝崎裕彦解説『交響頌偈「釈迦」』(B4判・一五〇頁・CD付・定価六九三〇円) 日本を代表する作曲家であり映画音楽を手がけたことでも有名な伊福部昭の自筆楽譜を復刻。音楽評論家片山杜秀が伊福部の音楽と本作品についての詳細な解説を、本学教授勝崎裕彦が釈迦の生涯について平易に論述。東響による初演時の演奏を収録したCDを付録として付した。

▼副島 弘道編『関東の仏像』(A4判・一五二頁・定価四二〇〇円) 関東近郊の著名な仏像、約60体を新たに撮りおろし。各尊像を詳細に解説。一二七点におよぶ豊富な画像は研究のみならず鑑賞にも最適。



玉川大学出版部

▼現代演劇協會監修『福田恆存対談・座談集 第七巻―現代人の可能性』(四六判・三二五〇円) 哲学者・矢内原伊作と思想、文学、人生を語り尽くす対話「生と死」のほか、「批評だけでなく、小説も詩も現代的に、すなわちクリティカルになってきた」と語る表題作「現代人の可能性」(開高健・河上徹太郎・篠田一士・進藤純孝・村松剛・佐伯彰一)、「日本人にとって天皇は何か」(司馬遼太郎・林健太郎・山崎正和)など全八編を収録。日本人の可能性を考える。生誕一〇〇年記念、福田恆存を通して激動の時代を浮き彫りにする「対談・座談集」全巻完結。

▼三輪えり花著『英国の演技術』(A5判・二六二五円) 演技とは身体、声、知性、理性、感情、ひらめき、想像力すべてが溶け合って生まれるもの――。英国の演劇学校では、あらゆるジャンルの演出に込められる即戦力と応用力を徹底的に磨く。数多くの俳優を輩出してきた英国王立演劇アカデミー(The Royal Academy of Dramatic Art)の俳優訓練方法を、日本で初めて理念から実践まで網羅的に紹介する。演技を鍛える書。

中央大学出版部

▼齊藤 孝著『デジタルメディアの情報インデックスと知識地図の研究』(三六七五円) 電子書籍のようなデジタルメディアの情報インデックスは変わるのだろうか。情報インデックスは、シソーラスや分類を用いる知識組織化の道具である。そして、人々に情報の姿形を明らかにする知識地図を与えてくれる。

▼飯田朝子著『ネーミングがモノを言う―あのヒット商品から「東京スカイツリー」まで』(二二六〇円)「東京スカイツリー」は公募上位二〇案にも入っていないかった? タワーなのに「ツリー」なのはなぜ? 名称検討委員で言語学者の著者が、今だから解き明かす「モノ」を言わせるネーミングのポイント。検討対象となった全二五八案のリストを初公開。

▼花輪俊哉著『貨幣と金融経済の展開―環境問題解明への試み』(二二二〇円) 初めに現代経済学の基礎理論として、日経新聞「やさしい経済学」での論考を取り上げ、次に現代の金融経済の特質を考え、ケインズ経済学を更に発展させ、消費者に代わる生活者をその理論的枠組みとして環境問題の解明を試みた野心作。

東京大学出版会

▼【編集委員】塩川伸明・小松久男・沼野充義『ユーラシア世界』(全五巻・A5判・平均二八〇頁・各巻四七二五円) 旧ソ連一五カ国を中心とする地域を、歴史・文学・政治・経済・法律・思想・民俗・国際関係など、様々な学問分野から第一線の研究者が集い、総合的に照射するシリーズ(1 〈東〉と〈西〉) / 2 『ディアスポラ論』 / 3 『記憶とユートピア』 / 4 『公共圏と親密圏』 / 5 『国家と国際関係』。

ソ連解体から二〇年を過ぎた現在、その地政学的変動によるこれからの変化の方向性が見え始めた。現状分析だけではなく、その根となつている歴史や精神的文脈の厚みをもつて読み解くことで、この地域がこれからの世界のなかでどのような位置を占めていくのかを見通すと同時に、キリスト教・ユダヤ教・イスラームなど、多様な文明を抱えるこの地域で繰り返されてきた越境と変容に目を向けることで、そもそも「地域」とは何かを問い直す。



法政大学出版局

▼G・ヴァッティモ／P・A・ロヴァッツァイ編／上村忠男他訳『弱い思考』(四二〇〇円) 暴力性をともなう形而上学との決別。エーコなど、現代イタリアの思想家―一名による哲学アンソロジー。

▼M・カリーゼ／村上信一郎訳『政党史配の終焉』(三一五〇円) 伝統ある既成政党は壊滅し、パフォーマンス政治家がはびこる現代イタリアの政治をおしして、民主主義の問題をあぶりだす。

▼M・C・ヌスパウム／神島裕子訳『正義のフロンティア』(五四六〇円) さまざまな学問分野を横断しつつ、センを踏まえた独自の能力アプローチによって、現代リベラリズムに一石を投じる。

▼合田正人監修／ボアグリオ浩子訳『ベルクソン書簡集I』(五七七五円) 哲学者の知られざる日常。ベルクソンが「創造的進化」の高名な哲学者となる第一次世界大戦前夜までの書簡を収録する。

▼櫻井芳昭著『牛車』(二八三五円) 牛車の盛衰を交通史や技術史との関連で探り、絵巻や日記・物語に描かれた牛車の種類と構造、利用の実態を明らかにして、平安の「雅」の世界へと読者を誘う。

武蔵野大学出版会

▼廣瀬裕之著『刻された書と石の記憶』(A5判・二二四頁・二二〇〇円) 武蔵野に建つ三基の石碑を例にとり、書(揮毫)、刻、石の三要素から解析。碑文の解釈、採拓(拓本をとる)とその分析など「刻された書」から入る書の研究書。



▼「臨海副都心の過去・現在・未来」武蔵野大学政治経済研究所「編」(四六判・二四〇頁・一八九〇円) 東京臨海副都心には「お台場」をはじめ「訪れてみたいところ」が多い。職・住・学・遊を有機的に結びつける開発計画の一環として二〇一二年、新キャンパスを有明地区に開設した武蔵野大学の政治経済研究所メンバーがこのまちを多面的に語る。



▼近刊・藤原千賀著『男女共同参画社会と市民』(A5判・二二〇頁・二二〇〇円)

東京電機大学出版局

▼Ajith Abraham・Crina Grosan・Vitorino Ramos 編、栗原聡・福井健一訳『群知能とデータマイニング』(A5・三二〇頁・三七八〇円) 昆虫や鳥は、単独では秩序だった行動をとることはないが、群れになると秩序だった集団行動をとる。群れとなることで知的な行動をとる様子を群知能と呼ぶ。データマイニングとは、大規模なデータ空間を探索して一貫性のあるパターンや系統だった関係性を持つデータを発見し、その結果をさらに新しいデータに適用してその妥当性を検証するという分析手法のことである。

本書では、群知能を計算機上で再現し、その性質を、一見すると群知能とは無縁なデータマイニング技術に利用する研究について解説している。全十一章から成り、序章では基本的な定義づけや重要な研究課題をいくつか紹介する。残りの章では実際の技術について、基本的なアイデアや考え方に焦点を当てて解説する。群知能の新しい領域への適用という野心的な試みを束ねた一冊。

武蔵野美術大学出版局

▼新島美監修『新版 graphic design 視覚伝達デザイン基礎』(A4判・四色刷・一九六頁・二五七〇円)

二〇〇四年初版、約十年を経ての改訂は、デザインとブランディングを論じた「デザインと企業」、これからの広告のあり方を示唆する「広告 Advertising」、写真家が語る「広告写真」、二次元に表現された動きを追う「動きとグラフィックデザイン」を最新事例の図版と共に収録。基礎を学び、最新情報と知識を把握し、深く広く理解するための必読の書。

▼『新版 版画』武蔵野美術大学油絵学科版画研究室+通信教育課程研究室編(A4判・四色刷・二五六頁・四四二〇円) 銅版画、木版画、リトグラフ、スクリーンプリント:さまざまな版画技法を豊富な図版とともに詳しく、かつ平易に解説。二〇〇二年初版以来、教育の現場で培われたムサビならではの工夫・アイデアを新たに盛り込み、近代以降の版画史と版画の現状をあわせて紹介。基礎をおさえながら、他分野との組み合わせなど、領域を超えた版画の未知なる可能性を呈示する。版表現への扉をひらく基本の一冊。

明星大学出版部

▼『**道徳教育の指導法**』佐々井・岩木・森下著（A5判・一八二頁・一四七〇円）
道徳教育の学習は、教壇に立つことを想定して実践的な指導法を身につけることが眼目となる。具体的な指導例、学習案を紹介しながら、必要事項を網羅する。



▼『**教育原理**』佐々井・樋口・廣嶋著（A5判・一九〇頁・一四七〇円）

教職課程の最も基本的な科目。教育の考え方、理念及び東西の教育の歴史を解説し、また我が国の戦後教育の歩みと変容を振り返り、現在の課題を展望する。

▼『**心の科学―基礎から学ぶ心理学**』林洋一監修 本多明生・大原貴弘編集（A5判・二三四頁・一九九〇円）

▼『**初等音楽科教育法** ハートフルメツセージ』阪井恵・有本真紀著（B5判・二五六頁・一八九〇円）

▼『**五線譜の約束**』阪井・有本他著（B5判・一二〇頁・一三二六〇円）

名古屋大学出版会

▼『**「腹の虫」の研究―日本の心身観をさぐる**』長谷川雅雄／辻本裕成／ベトロ・クネヒト／美濃部重克著（六九三〇円）
「虫の知らせ」「虫の居所」「疝の虫」などといった表現の根底にある日本特有の「虫」観を、かつての医学思想、文芸作品、民俗風習などを横断的に読み解くことで明らかにし、日本の心身観を浮き彫りにしたユニークな研究。

▼『**現代中国政治「第3版」―グロバール・パワーの肖像**』毛里和子著（二九四〇円）
毛沢東から胡錦濤へと至る政治の巨大な変容を、長年の研究に基づき包括的に叙述、かつてない繁栄を迎えたかに見える大国の新たな肖像を描きます。第一人者によるもともと信頼の厚い解説書、大幅改訂による待望の最新版。

▼『**アンチモダン―近代代精神史**』アントワーヌ・コンパニオン著、松澤和宏監訳（六六一五円）
フランス革命を契機に現れ出した（アンチモダン）の系譜をたどり、数多くの近代人を魅了したその思想の核心に迫る。ド・メーストルからバルトにいたるもう一つの近代精神史に光をあてる話題作。

関東学院大学出版会

▼本間英夫著『**教育研究と産学連携の軌跡―次世代に伝えたい五〇の提言**』（一二六〇円）
表面工学の第一人者である著者が、日常の研究生活のなかで感じたこと、産学連携プロジェクトを推し進める過程で考えたこと、また、教育者として学生と交わってきた日々、頭に浮かんだことなど、次代を担う若手研究者・技術者に向けたメッセージの数々。



▼糠塚康江・浅野俊哉編著『**創造する平和―共同性への模索と試み**』（一九九五円）
平和は守るものなのか、創り出すものなのか？ふだん見落とされがちな日常の実践の中に潜む平和創造の契機を別括し、学際的な観点から新しい共同性のある方を探った意欲作。



三重大学出版会

▼『**政権変革期の立法作業**』吉田茂著（A5版・四一〇頁・定価二九四〇円）
序論／第1章 法の制定過程 第1節 政府提出法案 第2節 議員提出法案 第3節 国会における審議 第4節 立法過程におけるマスメディアの役割／第2章 独占禁止法の構造と機能の変化 日本及び諸外国の独占禁止法の構造 第2節 独占禁止法をめぐる社会経済的機能の変化／第3章 独占禁止法の機能 第1節 政府案の法案作成過程（国会へ提出まで） 第2節 国会における法案形成過程及び関係各界の動き／第4章 平成17年改正をめぐる主要論点 1 リーニエンシー 2 株主代表訴訟とリーニエンシー 3 会社法、公益通報者保護法制定及び改正独占禁止法の関係／第5章 立法過程の特質 第1節 平成17年改正にみる変化とその構造 第2節 対応変化の要因／第6章 立法過程の構造変化 第1節 公正取引委員会の組織強化 第2節 小泉モデルとその後の首相たち 参考文献 ■小泉首相が行った独占禁止法改正の経過を関係者への聞き取りで明らかにする。

東海大学出版会

▼『**素数夜曲 女王陛下のLISP**』吉田武著（A5判・上製・九一二頁・定価三七八〇円）
本書は、数学学習の、全方位独学法を提供する。ガウスが、数学の女王と讃えた整数論を主題とし、対象の理解の為に様々な手法を駆使する。「発見法的」に始め、「証明」へと進む。結果は「数値実験」により再確認され、「グラフ」により可視化される。人物小史など内容は多岐に渡る。ラムダ計算の概要から、函数学型言語の基礎までを紹介し、LISPの方言であるSchemeにより整数論を表現する。

▼『**ガスタービン基礎と応用 発電用からジェットエンジンまで**』藤原仁志訳（A5判・上製・六八四頁・定価六〇九〇円）
ガスタービンの世界的定本「Gas Turbine Theory (6th Edition)」の翻訳書。20世紀最大発明の一つであるガスタービン全般の理論と実際を、発電からジェットエンジンに至るまで網羅し、詳細に解説する。特に三・一一以降の日本の電力事情や垂直離着陸機問題などについても有効なものである。

京都大学学術出版会

▼西山良平・藤田勝也編著『**平安京と貴族の住まい**』（四四一〇円）
「寝殿造」とは何か？最近の発掘事例には、建物の配置や様式など、その多様性が予感される知見も少なくない。定型的に理解されてきた、貴族の住まいの実像に迫る。新出資料を含む一三〇点以上の図版を収録。

▼ホップズ／本田裕志訳『**人間論**』（近代社会思想コレクション・三三六〇円）
「リヴァイアサン」と密接な関連を持つ哲学三部作を、ラテン語原典からの正確な翻訳で提供する第二弾。前半部は視覚論を中心とした詳細な自然学研究であり、後半部ではこれらの研究と政治・国家思想、宗教との連関が明確に示される。

▼阿形清和・森哲監修／船山典子他編『**生き物たちのつづれ織り―多様性と普遍性が彩る生物模様**』（上下巻・各巻二六二五円）
脈々と連なる遺伝子の川を縦糸に、多様に枝分かれした生き物たちの関わり合いを横糸に、実験室とフィールドワークの出会いが織りなす知のタペストリー。対象も手法も異なる多彩な研究の結びつきから浮かび上がってくる生物界の全体像を鮮やかに描き出す。

大阪経済法科大学出版部

- 今回は既刊書の紹介と刊行予定です。
- ▼『環境と海洋―海から見直す地球環境―』細田龍介、山田智貴共著（一八九〇円）
- 海洋のメカニズムと人間の生活・活動による海洋汚染を多数の図表で解説し、海洋の環境・保全改善を考える。
- ▼『刑事弁護士が語る裁判員裁判―十二ワの法廷から―』村下博・山口健一・岩村等編集（一五七五円）
- 大阪弁護士会所属の九名の弁護士によるリレー形式の公開講座の内容を編集。実際の弁護活動を具体的に例証し、刑事事件の捜査や裁判の問題点を提示する。
- ▼『不動産問題と法―不動産問題らの法学への接近―』田中嗣久著（一五七五円）
- 不動産には各種の権利が交錯し、そして衝突し、法学上の対立を惹起する。本書は、近年多くの裁判例が蓄積されている不動産に係わる諸問題を取り上げ、その検討を通して法学の問題を考える。十二月刊行予定
- ▼『未来を発信する八尾・環山楼市民塾2011』八尾を中心とした民産学官による環山楼市民塾の講座記録集。

関西学院大学出版会

- ▼寺尾将彦・田中善大・安田傑・上野永子著 K.G. りぶれつとN.O. 30『心理科学の射程』（A5並製・八八頁・定価八四〇円）
- ▼国際連合広報局著／八森充訳『国際連合の基礎知識 改訂版』（A5変並製・四九八頁・定価二七三〇円）
- ▼金明秀・三宅正弘・島村恭則・難波功士・山口覚著『関西私鉄文化を考える』（A5並製・一〇四頁・定価九四五円）私鉄王国関西と社会・文化をテーマに議論
- ▼関西学院大学総合政策学部編『K.G. りぶれつとN.O. 31『基礎演習ハンドブック 改訂新版―さあ、大学での学びをはじめよう！』（A5並製・一六四頁・定価一一五五円）
- ▼R フィッシャー・E ガイゼルマン著／宮田洋監修／高村茂・横田賀英子・横井幸久・渡邊和美訳『認知面接―目撃者の記憶想起を促す心理学的テクニック』（A5並製・二九六頁・定価二七三〇円）心理学的知見に基づく捜査面接手法として、目撃者から正確な情報を引き出す面接法である認知面接を確立した原書の日本初翻訳。

大阪大学出版会

- ▼王妙發著『中国先史集落の考古地理学研究』（B5判・八四〇〇円）先史時代の定住集落の形成から初期都市の成立までを精緻に分析。対象遺跡の地理環境などの貴重なデータを付表として掲載。
- ▼沢井実著『近代大阪の工業教育』（A5判・五四六〇円）戦前・戦中期の多様な技術者供給の実態を、大阪という地域から分析し、教育と工業化の問題を考える。
- ▼神原文子、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ関西編著『ひとり親家庭を支援するために―その現実から支援策を学ぶ―』（四六判・一九九五円）子づれシングルと子どもたちを応援したい人へ。離婚、非婚、DVを知って、どんな支援ができるのか。
- ▼玉井誠一郎著『知財インテリジェンス 知識経済社会を生き抜く基本教養』（四六判・二一〇〇円）知的財産権を自らの基本財産権として理解し、活用できるようにするための考え方、知識、実務を明示。
- ▼本田武司著『改訂版 食中毒学入門』（A5判・一八九〇円）食中毒撲滅のために正しい予防法を考える、いわば「知識ワクチン」。

広島大学出版会

- ▼『日本を愛したドイツ人―ケンペルからタウトへ』島谷謙著（A5版・約四四〇頁・価格未定）江戸から明治維新を経て大正、昭和へと変わり行く自然や伝統文化を、日本に滞在した異邦人の目を通して再評価する。九月三十日刊行予定
- ▼『植物乳酸菌の挑戦―未病および生活習慣病から化粧品まで』杉山政則著（A5版・約一五〇頁・価格未定）植物乳酸菌の基礎研究と利用技術開発の成果を分かりやすく解説。製菓、食品、醸酵分野に対する予防医療・未病医療への実用化戦略を示す。九月三十日刊行予定
- ▼『中国高等教育の拡大と大卒者就職難問題―背景の社会的検討』李敏著（A5版・二四九頁・三八〇〇円）高等教育の拡大プロセス、大卒者労働市場の構造、就職政策の視点と緻密なデータ分析に基づき、中国社会の実相を探る。
- ▼『われらユダヤ系ドイツ人―マイノリティから見たドイツ現代史 1893-1951』長田浩彰著（A5版・五二二頁・六九〇〇円）ユダヤ人がドイツ人に同化され、続いてナチスから迫害され後に復権するまでを渦中の団体や個人に即して描く。

関西大学出版部

- ▼アンソニー・セルドン編／土倉莞爾・廣川嘉裕監訳『ブレアのイギリス―1997〜2007―』（A5判・三九九〇円）ブレア政権期におけるイギリスの政治・経済・社会について、第一線の研究者により執筆された論考を集めた著作の抄訳。現代政治の主要論点および統治機構、そして主要政策について収録。
- ▼川口美貴著『労働者概念の再構成』（A5判・三九九〇円）労働者関係の法制の沿革を考察し、従来の行政解釈・学説・判例を批判的に検討する。また、自ら他人に有償で労務を供給する者であること及び交渉の非対等性を基本的判断基準として、法理論を体系的に再構成し、労務供給者の類型別に再検討する。
- ▼館野仁子・高屋定美・田村香月子・徳永昌弘著『グローバル金融危機と経済統合―欧州からの教訓―』（A5判・二六二五円）近年の欧州での金融経済危機に焦点をあて、EUの金融政策、金融規制、ロジスティクスの観点から検討する。また、ロシア経済への波及についても検証する。これらを通じて、経済危機の多面的な状況を理論的・実証的に考察する。

九州大学出版会

- ▼谷本潤『谷本教授の（努力すれば）誰にでもわかる環境システムの数理解析基礎―収支式の成り立ちから時間発展、数値解析まで―』（B5判・二五二〇円）環境システムの時間発展を記述する数値モデルの定式化と数値解析法を身近な例を通じて分かり易く解説。
- ▼望月俊孝『漱石とカントの反転光学―行人・道草・明暗双双―』（A5判・六七二〇円）『経験的実在論』にして超越論的観念論（カント）の『三四郎』メモから「明暗双双」「則天去私」に向かう世界反転光学徹底の筋を追ひ、生死一貫リアリズム詩学の批判哲学的生成に迫る。
- ▼岡崎敦・岡野潔編『九州大学人文学入門4 テクストの誘惑 フィロロジの射程』（A5判・二二〇〇円）テクストの解釈をめぐる研究現場の最前線と、文献学の最先端を紹介し、読者を知とテクストについて考える愉しみへと誘う。
- ▼麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記 第二巻』（A5判・一〇五〇〇円）近代を代表する実業家麻生太吉の日記集（全五巻）。第二巻は一九一七〜二二年を収録。第一巻既刊（一九〇六〜一六年）。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員社名簿

【50音順】2012年9月30日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2
垂細垂印刷株式会社	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7F
城島印刷株式会社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社京都学術振興会	〒605-0009	京都府京都市東山区大橋町88-1 辻野ビル2F-A
株式会社クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社桑川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0012	東京都港区芝大門1-3-4 ダイニックビル7F
株式会社太洋社	〒501-0431	岐阜県本巢郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-3-4
株式会社とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11
東光整版印刷株式会社	〒135-0006	東京都江東区常盤2-12-15
株式会社トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 19F
株式会社平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7
ベル製本株式会社	〒350-1155	埼玉県川越市下赤坂752-1
株式会社堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1
株式会社遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243	東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042	東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧（掲載順）

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
未來社	〒112-0002	東京都文京区小石川3-7-2
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
みすず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
御茶の水書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-30-20
藤原書店	〒162-0041	東京都新宿区早稲田鶴巻町523



社会、経済、歴史、地理、環境・・・
幅広い年代とジャンルを網羅した
1000万枚を超えるフォトストックと
40,000点のニュース映像を、
あなたの大学にアカデミック価格で
お届けします。



1835年の設立以来、正確・中立・公正を守り続ける歴史と信頼のAFP通信（Agence France-Presse）が、厳密な倫理規定のもとで取材した写真と映像、さらに速報性の高いニュース記事を、日本国内の教育機関向けに提供するデータベースサービスです。

すべてのデジタル素材は、アカデミックユースでの著作物二次利用許諾済みです。教材、論文、授業や学会でのプレゼンテーションなどに、煩雑な著作権処理なしでご利用いただけます。

■ 資料請求、無料トライアルは AFPWAA ウェブサイトから

<http://www.afpwaa.com>

AFP World Academic Archive

学校法人文化学園 アカデミックアーカイブセンター

〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3-22-1

Tel : 0120 - 021 - 311 info@afpwaa.com

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覧

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL: 0297-60-1167 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL: 03-5479-7295 FAX: 03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サビアタワー9階
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL: 03-3263-4230 FAX: 03-3263-4288

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1
TEL: 03-3918-7311 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会
〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学構内
TEL: 03-3811-8814 FAX: 03-3812-6958

東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-7
法政大学一口坂校舎内
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-5906 FAX: 045-786-2932

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL: 072-941-9129 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL: 082-424-6226 FAX: 082-424-6211

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172

NESE
RSITY
SSES

.92
2.10
UMN

大学出版92号 (2012年秋)
2012年10月1日発行
頒価100円 (〒共)

発行所:
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131
〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL: 03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

—
使用書体:
本明朝-M小がな, BII (標準がな)
Stempel Garamond, Roman
使用紙:
紀州の色上質 特厚口 さくら

—
表紙デザイン:
白井敬尚形成事務所